

患者向け説明書：肺炎球菌ワクチン この説明書は、肺炎球菌ワクチン接種を受ける方に必要な情報をまとめたものです。接種前に必ずご確認ください。

肺炎球菌感染症とは

- **原因**: 肺炎球菌 (*Streptococcus pneumoniae*) による感染症。
- **感染経路**: 飛沫感染や接触感染。
- **症状**: 肺炎、中耳炎、副鼻腔炎、敗血症、髄膜炎など。
- **重症度**: 高齢者や乳幼児、免疫力が低下している方では重症化しやすく、死亡や後遺症のリスクがあります。

ワクチンの種類

- **プレベナー20** (20 価肺炎球菌結合型ワクチン): 乳幼児や高齢者に使用。免疫持続が長く、幅広い血清型をカバー。
- **ニューモバックス** (23 価肺炎球菌莢膜多糖体ワクチン): 成人や高齢者に使用。より多くの血清型をカバーしますが、免疫持続はやや短い。
- **効果**: 重症肺炎球菌感染症の予防に有効。

接種スケジュール: いずれも 1 回接種が基本です。

- **高齢者 (65 歳以上)**: 定期接種対象。1 回接種。
- **基礎疾患のある方**: 医師の判断で接種が推奨されます。

副反応について

- **よくある副反応**: 注射部位の発赤、腫れ、痛み。
- **全身反応**: 発熱、倦怠感、筋肉痛。
- **まれな副反応**: 強いアレルギー反応 (アナフィラキシー)。

接種が推奨される方

- 65 歳以上の高齢者。
- 心臓病、肺疾患、糖尿病、免疫不全など基礎疾患を持つ方。
- 医療従事者や介護施設入居者。

接種前の注意

- 発熱や体調不良がある場合は接種を延期することがあります。
- 過去にワクチンで強い副反応があった場合は必ず医師に伝えてください。
- 妊娠中・授乳中の方は医師に相談してください。

接種後の注意

- 接種当日は激しい運動や飲酒を控えてください。
- 注射部位の腫れや痛みは数日で改善することが多いです。
- 強い症状が続く場合は速やかに医師へ相談してください。

まとめ

肺炎球菌感染症は乳幼児や高齢者にとって命に関わる重症感染症です。ワクチン接種により予防が可能であり、定期接種対象者は必ず接種することが推奨されます。

この説明書は一般的な情報です。詳細は必ず医師・医療機関にご相談ください。

副反応確認のため、接種後 20 分間体調確認をさせていただきます。

帰宅後、体調の変化などがございましたら下記にお問い合わせ下さい。

秋田赤十字病院 電話 018-829-5000(代表)

平日(8:30-16:30)は予防接種センターでの対応、それ以外の時間帯は救急外来での対応となります。